

クラシック音楽について調べる



「難しい」「高尚」と思われがちなクラシック音楽ですが、音楽家や作品の背景を知ることで身近に感じることができるともかもしれません。興味のあることから調べてみませんか？調べた後に聞く音楽は今までと感じ方が変わるかもしれません。



Ⅰ クラシック音楽の基本情報について調べる

『西洋音楽史大図鑑』 ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス
2022.1 【762.3】

♪伝説的な作曲家、そしてあまり知られていない作曲家による 90 以上の作品をわかりやすい言葉で詳しく解説し、図表やイラストも交えながら、クラシック音楽の創造と受容の背後にある鍵となる概念を解き明かしています。

クラシックをたまに聴く程度の人、熱烈なクラシック・ファンでも、本書を読めば興味をひかれ、クラシック音楽に対する理解が深まる資料になっています。

『ものがたり西洋音楽史』 岩波書店 2019.3 【ティーンズ 762コ】

♪西洋音楽は、いくつもの「異質な音楽」から成り立っています。中世から 20 世紀まで、前後の時代とのかかわりを意識しながら、それぞれの時代の音楽様式の特徴と特質が描かれ、クラシック音楽の歴史がわかる一冊になっています。また、神への祈りの言葉から始まった、中世の教会音楽。多声音楽が花開いたルネサンス期。オペラが誕生し、器楽が興隆したバロック時代。時代を代表する作曲家と作品、演奏法や作曲法、音楽についての考え方の変遷をたどり、西洋音楽史の大きな流れが描かれています。

『西洋音楽史』 中央公論新社 2005.10 【762.3 オ】

♪18世紀後半から20世紀前半の音楽を一般に「クラシック音楽」と呼びます。「クラシック音楽」の歴史、その前史である中世などで何が用意されていたのか。そして、「クラシック後」には何がどう変質したのかを大胆に位置づけています。

『すぐわかる!4コマ西洋音楽史1』 ヤマハミュージックメディア 2011.12

【762.3 モ】

♪音楽の始まりから、古代ギリシア、古代ローマ、中世、ルネサンス、バロック初期まで西洋音楽の歴史を、4コママンガを交えて楽しくわかりやすく解説してあります。

『クラシック名曲全史』 ダイアモンド社 2019.10 【762.3 マ】

♪マーラーの評価はなぜ上がった？ロマン派を支えた女性パトロンとは？クラシック音楽を作曲家たちの発露としてみるだけでなく、ビジネス的な視点でとらえ直している内容になっています。

『究極!クラシックのツボ』 青弓社 2002.1 【760.4 キ】

♪クラシックってなんだろう？クラシック音楽を聴いている人、聴きたいという人のために、いちばん大事なポイントを厳選して紹介。作曲家や演奏家、指揮者、歌手の超辛口批評から、コンサートの作法までが掲載された事典になっています。

2 作曲家と楽曲について調べる

『図鑑世界の作曲家 中世から現代まで』 東京書籍 2021.8 【762.8 ズ】

♪西洋を中心とした中世から現代までの主要な作曲家 158 名を、クラシック音楽の流れとともに 6 つの時代に分けて編年的に配列。作曲家の肖像画や肖像写真、楽譜などを多数掲載し、視覚的に解説してあります。

『社会思想としてのクラシック音楽』 新潮社 2021.5 【762.3 イ】

♪ バッハが「薄給の公務員」に甘んじたのはなぜか？モーツァルトはなぜ「革新的な名曲」を連発できたか？音楽と政治経済の深い結びつきを社会科学の視点で描かれています。

『クラシック作曲家大全』 日東書院本社 2013.10 【762.8 ク】

♪ 中世からルネッサンス、バロック、古典派、ロマン派の時代を経て、1900 年以降の近現代音楽の発展まであらゆる時代の音楽と楽器を網羅し、約 300 人の作曲家の生涯や作風、主要作品について詳説しています。

『やさしく読める作曲家の物語』 ヤマハミュージックメディア

2010.6 【762.3 ク】

♪ モーツァルト、ベートーヴェンなど、音楽の歴史を作った 4 人の作曲家を取り上げ、その人生から作品の解説までを網羅。天才の苦悩や挫折、そして成功までの道のりをイラストを交えてやさしく紹介します。

『教科書にでてくる音楽家の伝記』 講談社 2017.1 【児 762 キ】

♪ ベートーヴェン、モーツァルト、バッハなど教科書でも紹介される音楽家の子ども時代の様子から音楽家としてどのように大成していったのかを時代を追って紹介しています。1 場面に 1 点の挿絵を添え、それぞれの人物像がよりイメージしやすい構成になっています。

『名曲誕生 時代が生んだクラシック音楽』 山川出版社 2014.3 【762.3 コ】

♪ 時代を変えた音楽はどのように生まれたのか、名曲が生まれた背景にあった時代の変革とは何か。西洋クラシック音楽からヨーロッパの歴史をひもとく内容です。

『クラシック作曲家あらかると』 三省堂 1992.4 【762.8 千】

♪ 海外からくるオーケストラや演奏家たちの数も年々増え、クラシック音楽は、私たちの生活の中に浸透してきています。バッハから J・ケージまで、名作曲家たち

の人となりと生涯をあまり知られていないエピソードを交えて紹介しています。

『くわしく名曲ガイド』 講談社 2006.10 【760.8 モ】

♪オケ 20 年指揮 10 年、“もぎぎ”こと茂木大輔がオススメするクラシック名曲の数々。初心者が TPO に合わせて聴ける音楽や、星座・血液型に合わせた作曲家などを紹介。音楽の楽しみ方・聴き方のヒントが満載です。

3 演奏家について調べる

『ピアニストの名盤』 平凡社 2004.12 【762.8 ホ】

♪18 世紀にその原型が生まれて以来、さまざまなヴィルトゥオーゾ(卓越した演奏家)たちがピアノを駆使して、豊かなクラシック音楽の世界を築き上げてきました。古今のヴィルトゥオーゾ 50 人を厳選し、彼らの名盤 CD を紹介しています。

『私の好きな演奏家』 河出書房新社 2004.7 【762.8 ワ】

♪世界的に有名な指揮者、ピアニスト、弦楽器演奏家達の演奏した CD を聴き比べたクラシックガイドブック。指揮者はワルターやマゼール、ピアニストはリヒテルやバレンボイム、弦楽器演奏者はヨーヨー・マやシュタルケルを紹介しています。

『クラシック CD の名盤 演奏家篇』 文芸春秋 2000.10 【762.8 ウ】

♪「魂が震えるような演奏とは？」その半生を感動の追求に捧げてきた三人の著者が贈る名盤ガイド。フルトヴェングラー、カラヤン、ホロヴィッツ、ハイフェッツなどについて三人の意見は時に真っ向から対立し、時に相手の卓見を讃え、自らの音楽観や人間観を披瀝する内容になっています。

『クラシックこの演奏家を聴け!』 音楽之友社 1996.4 【762.8 デ】

♪CD の鬼である著者が絶対の自信をもってすすめる、珠玉の名演奏家たちの演奏論と名盤ガイドです。演奏家ジャンル別目次や、掲載アーティスト・プロフィールなども付いて、探しやすくなっています。

『クラシックの愉しみ』 角川書店 2013.3 【760.4 ヨ】

♪音楽評論家歴 70 年の著者が独断と偏見で、語り継ぎたい名指揮者・名歌手・名演奏家を綴る。音楽写真家・木之下晃撮影の「20 世紀のマエストロたち」も収録されています。

4 楽器について調べる

『世界の楽器百科図鑑』 東洋書林 2002.11 【R763.0 マ】

♪時代や様々な文化に見られる楽器は、社会形態、儀式と宗教をも語る。人間の声にはじまり、世界各地における楽器の起源から現在までの発展の足跡を、数百点の美しい写真や図版とともにたどり、音楽教育にも最適の教材です。

『楽しいオーケストラ図鑑』 小学館 2018.10 【児 764 タ】

♪日本で最も長い歴史をもつオーケストラ「東京フィルハーモニー交響楽団」のメンバーが教えるオーケストラ入門本。楽器から演奏者、コンサートの裏側まで、オーケストラの世界を写真やイラストとともに紹介しています。

『楽器のしくみ』 日本実業出版社 2006.2 【763 オ】

♪ヴァイオリン、ヴィオラ、ハープ、フルート、オーボエ、ホルン、トロンボーン、ピアノ、ティンパニ、リコーダー…。美しいカラー写真で楽器を徹底解剖。また、各楽器の構造、歴史、音色の特徴などをわかりやすく解説しています。

『これがオーケストラだ』 音楽之友社 1984.3 【児 764 ポ】

♪クラシック音楽を演奏する際に使用される楽器の構造や音の出し方が絵と写真で丁寧に説明されています。

5 指揮者について調べる

『至高の十大指揮者』 KADOKAWA 2020.1 【B762.8 ナ】

♪「三大指揮者」トスカニーニ、ワルター、フルトヴェングラーからカラヤン、バーンスタインを経て、現代の巨匠ラトルまで。彼らはどのようにキャリアを積み上げ、何を成し遂げたのか。世界的指揮者たちの人間ドラマが綴られています。

『交響録N響で出会った名指揮者たち』 音楽之友社 2020.10 【762.8 モ】

♪聴く側では知り得ない、指揮者の個性、技量。1990年から2019年に定年退職するまでの29年間、NHK交響楽団(N響)の首席オーボエ奏者として演奏した著者が、共演した名指揮者たちとの思い出を綴った内容です。

『図説指揮者列伝』 河出書房新社 2007.5 【762.8 タ】

♪生誕140年を迎えたトスカニーニから、26歳の新星グスターボ・デュダメルまで、世界の名指揮者100人を紹介。オーケストラとの逸話や伝説の数々、聴き方のツボなど、辛口ライターによる異色の指揮者物語です。

『名演奏のクラシック』 講談社 1990.4 【762.8 ウ】

♪宇野功芳が語る演奏家論。ワルター、フルトヴェングラー、リリークラウス、チョン・キョンファンまでの名演奏家と言われる演奏家の紹介。魂を揺さぶる指揮者、お気に入りのピアニスト、同じ曲でも演奏家の違いによって輝きを増すということが描かれています。

『世界の指揮者』 筑摩書房 2008.3 【B762.8 ヨ】

♪フルトヴェングラー、ヴァルター、ムラヴィンスキー、カラヤン、アバドなど演奏史上に輝く名指揮者28人に光をあて、その音楽の特質と魅力が描いてあります。さらにCDの名盤を語る「指揮者とディスク」も説明されている指揮者論になっています。